

処方箋の流れ

院内統一のPCにて

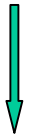
病棟 医師:処方入力 処方シール発行



看護師:オーダーされた処方シールにて内容確認し、カルテへ貼附
割り印

薬局 服用開始日を基準に処方締め処理を行なう

薬剤師 :薬剤支援システムにて内容を確認し処方箋、
処方箋控薬袋を発行



薬剤師 :調剤、内容確認し捺印

薬剤師 :最終監査、調剤の監査、薬袋チェック、薬袋と処方箋に捺印

病棟へ

最終鑑査の終了した薬剤と処方箋控を病棟へ払出す

患者さまへ与薬

病棟

医師が処方オーダー入力

+ 処方シールの発行

看護師の役割

処方シールにて患者氏名確認、内容確認し、

処方シールをカルテへ貼付

医師のサインの確認

処方シールへ割り印

薬局にある院内統一のPCに医師が入力した処方データが送信される



こちらが病棟にお薬を運ぶ専用のリフトです。この隣に大きなリフトがあり中央材料室が主に使用しています。

中はこのようになっています。お薬のほかカルテ等の連絡に医事課も使用しています。



ようこそ薬局へ 



薬局は1号館地下にある。現在10名の薬剤師と事務1名で稼働している。

画面(上での)監査



処方締め処理を行なったデータが調剤支援システムに送信される。
そこから薬局内で調剤が始まります。

内容のチェック 用法・用量、併用禁忌、相互作用、重複投与等
調剤方法決定(一包化、ヒート、粉碎等)、処方箋、処方箋控、薬袋の
作成。



画面監査でデータを送るとこの機械から薬袋と処方箋、処方箋控が出てくる
薬袋は普通薬大小・就前薬・頓用・外用大小の6種類がセットされている

調剤 その1 計数調剤



ヒート(PTP)包装、散剤分包品、外用薬等

調剤 その2の1



一包化調剤、
ワンドーズパック
(One Dose Pack)

自動錠剤分包機

一回に服用する薬
が一包化される。



調剤 その2の2



出てきたお薬を処方箋と照らし合わせ、1日分は錠剤の刻印を見て内容を確認する

氏名と用法が印字されているのも利点。



調剤 その3の1 散剤



散剤は用量設定が自由に
できるという大きなメリット
がある

ミスを防ぎ、適切な監査が
できるよう工夫している



調剤 その3の2 散剤



自動散剤分包機

氏名・用法が印字される

パイルパッカー



コンタミの可能性がほとんどない
用法が異なる散剤を一包化できる

遮光の必要があるものは赤いフィルムを用いる

手作業なのでテクニックが必要

散剤の分包方法のいろいろ



青色シート

精神科病棟、就前定期薬

赤色シート

遮光が必要な薬剤

透明シート

その他

散剤の分包方法のいろいろ



小児専用分包機

氏名・用法・薬剤名記載

小児科の散剤、錠剤を粉碎した際に使用

散剤の分包方法のいろいろ



(一般)分包機

氏名・用法・薬剤名記載(但し薬剤名は精神科以外)

もともと散剤であるもの、精神科病棟に入院または精神科の医師の処方

調剤 その4 水剤



用量設定が自由にできる。
甘いシロップ剤は小児に好んで用いられる。
経管栄養などで錠剤が飲めない方、散剤が苦手な方に。

調剤 その5



調剤しながら処方内容もチェックする。調剤した薬剤と処方箋・処方箋控・薬袋を合わせ、捺印。

時間外ではPCの電源を切っているので複写の処方箋に手書きで記入していただく。薬袋は手書きし、処方箋控と併せて最終監査へ。

最終監査



最終監査

処方内容の確認、調剤の確認 分包されたものは錠剤の刻印から確認
一包あたりに入っている数をすべてチェック 散剤は分包したものを量ってチェック
薬袋のチェック、氏名、用法・用量、服用開始日・その他コメントの確認。

薬袋、処方箋に捺印

適切な薬袋に分けて薬剤を入れ、処方箋控と共にホッチキスで留める

できあがり



処方箋のゆくえ



毎日病棟ごとにファイルしてゆく

その際、医師のサイン、割り印など不備がないか再チェック

1日ごとに処方箋の枚数と処方件数を数える

1ヶ月ごと、病棟ごとにファイルし、5年間保管

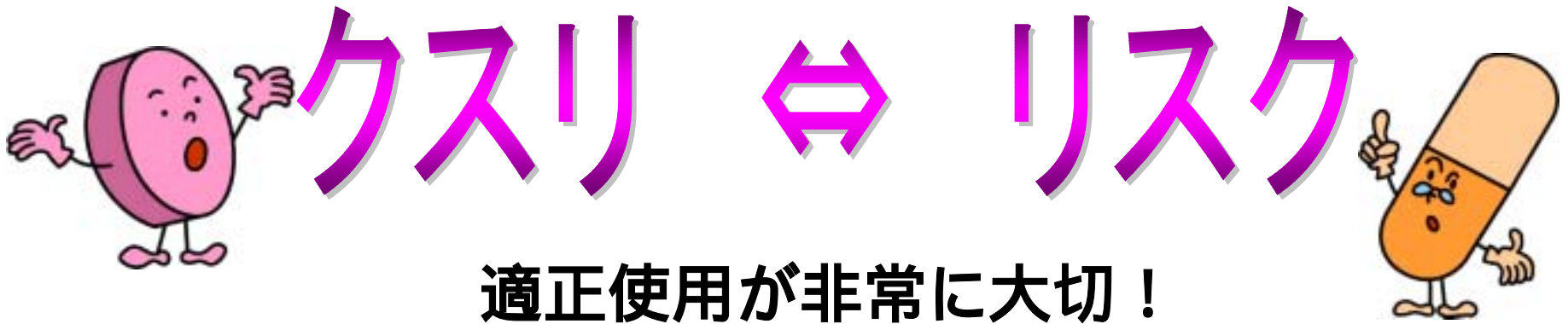
定時処方

先ほどの臨時処方とは別に定時処方がある

これは入院が長期となり、処方内容に変わらない状態が続く場合使用される。2-1, 2-2は2週間処方、その他は1週間処方。

病棟毎に決められた曜日に薬が届くようになり薬の管理がしやすくなりました。

病気の治療に薬剤は必要不可欠です



お互いの情報を交換して
患者様中心のチーム医療をより良いものにしてゆきましょう

分からない事があったら
何でも薬局へ聞いて下さい

